

なみちゃん
と
こうちゃん



こうちゃんは、ママと おかいものに 出かけました。
「おはなみに、もって行く おかしは、ふたつまで。
このおかねで、かいましようね」
ママは、おさいふから ぎんいろのおかねを、だして
こうちゃんに、みせました。
おいしそうなおかしが、ならぶ たなのまえで、
まよっていた こうちゃんが、
おかしを たなからとって、ママに、みせました。
「やくそくしたから、ふたつ。ママ、これ、かえるっ。」



なみちゃんと おじいこの こつちゃんは、
ちかくのいっせんに せりがいを とりにいきました。
「うなわね」

なみちゃんは さがすのに むちゅんぽ
こつちゃんが そばに いないことに きがしません。
「ばしゃーん！」

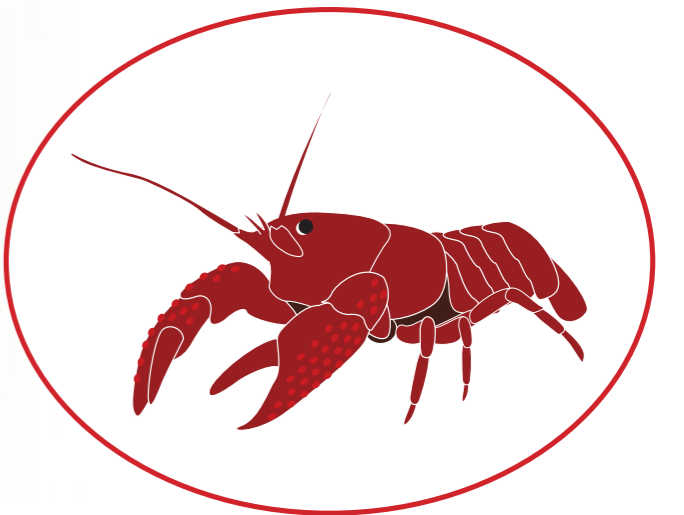
こつちゃんが、ころんでしまいました。

「あー！」

おぼれかけた こつちゃんを さんぽにきていた おじさんが、
たすけてくれました。

なきそつな なみちゃんに おじさんは、 やさしくいいました。

「いじもたけで みずあそびするのね あらうなわね」





コスモスが ゆれるなか、

きょうは よろちえんで いもほりです。

スコップを てに いっしょけんめい ちちをほります。

なみちゃんひとりでは、ほりだすことが できません。

あやちゃんも てっだって、

ちからいっぱい ひっぱります。

「せーの」

「わあっ、おおきー!」

なみちゃんと あやちゃんは おもわず

かおをみあわせて わらいました。

せんせいが、いいました。

「たくさん とれたね。せんぶ、はくべるかな」



せつすべ おしよつがし。

きょうは、みんなでおうちの おおそつじです。

なみちゃんも いっしょにおかたづけをしています。

「あれっ..」

なみちゃんは、ママが つかっている めのかばんに

ちいさなあなが あらっているよ」 きがつきました。

「ママ あなが あらってるよ」

「なおせるから だっしょひら」

なみちゃんは、ふじきんぐに ききました。

「あたりこの かわなの？」

ママは、いっしょにわらって しまいました。

「これは、ママにとって たいせつな かばんなの」





生涯にわたり、消費生活に関する知識や技能を学び、実際の生活の中で活かすことが、豊かで安全、安心な暮らしにつながります。

学びは、生きる力の基礎が培われる幼児期から始まります。

この絵本では、個々の発達に合わせながらも、消費者として幼児期に育てていただきたい次の力を取り上げました。

● 買いものに関心を持ち、ものとお金の関係を知る

● ぐらの中の危険に気付く

● 協力する大切さを知る

● 身の回りのものを大切に

なみちゃんといっしょちゃん、ふたりの「はる」、「なす」、「あき」、「ゆめ」の話を通じて、楽しく学ぶんでいただければと思います。



『ママとお買い物』

○ 買いものに関心を持ち、ものとお金の関係を知る

インターネットショッピングや電子マネーの利用をはじめとした、「見えなのお金」によるキャッシュレス決済により、今後一層、ものとお金の関係が見えにくくなるのが考えられます。

親子で買いものをする場合は、お金の大切さやものの値段などについて学ぶ機会となります。買いものを体験することで、ものとお金を結び付けることができ、金銭感覚が育つこととなります。

また、いろいろな体験を通して、約束を守ることや、欲しいものがあってもよく考え、ときには我慢できるようにしましょう。

この話の最後で、「いっちゃんの嬉しいな」「これかえるの？」の問いに、あえてママの返事は書いていません。実際に買いものの体験をさせながら、それぞれの話を作っていただろう。

『子どもだけの水遊び』

○ ぐらの中の危険に気付く

子どもは、自然と触れ合い、動植物や昆虫など身近な自然とのかかわりの中で、多くのことを学びますが、時と場合によっては危険がともないます。池や川、海などでの水遊びは、楽しい反面、事故につながる危険性があります。

また、水場に限らず、場所や遊び方、ものの取り扱い方をあやまると、危険な目にあうことがあります。身の回りにはいろいろな危険があり、考えながら行動することが大切だと気付くことが出来るようにしましょう。

安全に過ごす習慣を身に付けるには、危険に対する知識やその理由を繰り返し丁寧に伝えることが大切です。この話は、「あぶないぞ」で終わりますが、日常生活の中のいろいろな危険について、あわせて話をしておいていただろう。

『楽しいもほり』

○ 協力する大切さを知る

ひとりではできないこと、自立心を大切にしながらも、友達と協力し、共通の目的を達成できた喜びはひとしおです。一緒に行動する中では、ときには相手に気持ちが伝わらないうちや自分の思いどおりにならないうちやもどかしさ、うかもしれませんが、それでも、集団生活の中で、他者への思いやりや決まりを守ることなど、人とのかわり方を学んでいきます。

一人ではできないことも、協力してもうらやみにうらやみにうらやみがあります。友だちと仲よく遊ぶ中で体験を積み重ねることで、協力することの大切さに気付いていきます。

いろいろな体験を通じてこの話のよさに、協力してやり遂げた楽しい気持ちを感じてもらうために、新しい目標を見出し、めざりに協力してやり遂げたい気持ちを引き出してあげていただろう。

『大切なかばん』

○ 身の回りのものを大切に

修理して使うというママの態度から、愛着を持ったかばんを大切にしていることが分かります。

愛着は、お金の価値とは違う価値のものに与え、ものに愛着を持つことは、おのずと大切に扱う態度を育みます。身近な人が、ものを大切にしている姿を見せて、ものを大切にすることを伝えましょう。

話の中のかばんには、ママにとって大切な思い出が詰まっています。身の回りにある「たいせいなもの」について話し合ってみていただろう。



読んで
あげるなら **3才** から

●発行元

徳島県危機管理部県民くらし安全局安全衛生課生活安全室
